

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の2第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成21年9月10日

【事業年度】 第61期（自平成20年4月1日至平成21年3月31日）

【会社名】 株式会社 アドバネクス

【英訳名】 ADVANEX INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 加藤 雄一

【本店の所在の場所】 東京都北区田端六丁目1番1号

【電話番号】 03(3822)5860(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役業務管理本部長 大野 俊也

【最寄りの連絡場所】 東京都北区田端六丁目1番1号

【電話番号】 03(3822)5860(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役業務管理本部長 大野 俊也

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成21年6月25日に提出いたしました第61期（自平成20年4月1日至平成21年3月31日）の有価証券報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第一部企業情報

第2 事業の状況

7 財政状態及び経営成績の分析

3 【訂正箇所】

訂正箇所は_を付して表示しております。

第一部 【企業情報】

第2 【事業の状況】

7 【財政状態及び経営成績の分析】

（訂正前）

1. 記載なし

(1)～(3) 省略

(4) 重要事象等に係るもの

4「事業等のリスク」(9)重要事象等に係るもの、に記載のとおり、当社グループは、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当該重要事象等を解消し、又は改善するため、当連結会計期間の第3四半期以降、3「対処すべき課題」に記載のとおり取り組んでおります。

（訂正後）

1. 提出会社の代表者による財政状態及び経営成績に関する分析・検討内容

(1)～(3) 省略

2. 事業等のリスクに記載した重要事象等についての分析・検討内容及び当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策

当社グループは、継続企業の前提に関する注記を開示するまでには至りませんが、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当該重要事象等を解消し、又は改善するため、当連結会計年度の第3四半期以降、以下に記載のとおり取り組んでおります。

1) 精密ばね事業の事業改革

当社及び当社グループの収益状況の悪化と事業環境の急激な変化に対処するため、主力事業である精密ばね事業の体制再編に取り組み、経営合理化施策の実行によって早期に収益力の回復を図ることが喫緊の課題となっております。具体的には、以下の通りです。

当社福島工場の閉鎖

福島工場については、昨年来、金属プレス生産設備を柏崎工場や大分県の新工場に移設し、福島工場は金属・プラスチックの一体成形（インサート成形）に特化したハイエンドの生産拠点にすることを目指しましたが、電子デバイス部品を中心とする受注減少のため、本年6月末に工場を閉鎖することを決定しました。福島

工場で生産しているインサート成形品や一部のプレス製品については、グループの第一化成株式会社本社工場（栃木県下野市）をはじめとする国内及び海外の生産拠点に分散し最適化を図ります。不要になる機械設備や工場の土地及び建物等の固定資産に関しては、今後売却する方針です。

全事業所における人員削減

福島工場の閉鎖に伴い正社員の早期退職を実施するほか、本社や柏崎工場等の事業所においても希望退職を実施いたします。これらにより、非正規社員も含め、全社員の約1/3にあたる社員を削減し、固定費の削減を図ります。

本社機能の適所再配置と事業所の統合等

本社機能に関しては、研究開発・購買・品質保証を工場及び他事業所へ移動することにより、本社オフィススペースを縮小し経費の削減を図ります。大阪事務所については、グループの第一化成株式会社の大阪事務所と統合いたします。

第一化成株式会社との統合

経営資源の集約による事業の効率化と経費の削減を図るため、国内の連結子会社のうち、プラスチック事業を行っている第一化成株式会社（本社：栃木県下野市）との事業連携を強化いたします。当社の精密ばね・金属加工技術と同社のプラスチック射出成形技術の融合を進め、特に自動車市場向けの機構ユニット製品の開発及び販売の強化・拡大を図ってまいります。

海外子会社の再編

海外事業の効率化を図るため、全社的なグループ会社の再編に取り組んでまいります。中国においては事業の強化を図るべく、グループ会社の資本関係を整理し、中国に複数ある子会社の統合を検討するとともに、シンガポールにある技術センター(ADVANEX ENGINEERING CENTRE (ASIA) PTE.LTD.)を解散し、その事業を中国に移管いたします。中国以外のアジア及び英国においては、事業の採算性を考慮しその集中と選択を検討してまいります。

タンダレス・コイルスレッドの拡販

当社の独自技術で競争力の高い製品であるタンダレス・コイルスレッドについては、欧米はもとより日本・アジアにおいても、さらなる事業拡大を行ってまいります。

2) 精密組立部品事業の回復

精密組立部品事業の中核をなすヒンジビジネスにおきましては、今後も成長が期待できる海外の携帯電話市場をにらんで商品開発を推進、大手顧客向けに営業・開発体制を整備し、戦略的に販売を拡大していきます。このため、海外営業拠点の整備と追加を進めてまいります。携帯電話向け以外に、低価格ミニノートパソコンのヒットにより成長が続くパソコン市場への販売も強化してまいります。

3) 企業統治の強化とグループ最適経営

連結における実効性の高いコーポレート・ガバナンスが命題として与えられている中、内部統制の仕組みを整備するとともに、グループのパートナーシップを推進し、集中と分散、求心力と遠心力の最適化を目指したグループ経営を目指してまいります。